

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス unico新宮		公表日	2026年4月29日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		概ね評価できるが、店舗基礎の関係でトイレに行くために2段階を上がる必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・月1回の運営MTGや毎日の支援の振り返りを実施し、全スタッフで業務改善に努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・全職員で保護者向け評価表の閲覧を行い、誠実に対応するとともに業務改善に取り組んでいます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・2026年2月に県の運営指導実施予定 ・第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査を年2回実施しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・月に1回程度、支援の質を向上させるための研修を実施しています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・活動プログラムを作成する際、子どもだけでなく大人も興味関心のあることを共有したり、保護者や子どもたちからリクエストを受けるなどしています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・保育園等への直接の聞き取りは行っていませんが、保護者や児童発達支援事業所、相談支援事業所等からの情報収集を行っております。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	-	-	・これまで該当する利用者がいないため提供はしていませんが、今後障害福祉サービス事業所へ移行するケースがある場合には対応したいと考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・送迎業務等の時間と被るため参加できないことも多いですが、可能な限り参加をさせていただいております。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			

こ ど も の 安 全 確 保	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico新宮			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数)	43名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「お子さま一人ひとりが自分で考え選択すること」を大切にし、その選択を認めることで自信につながる関わりや環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の気持ちに気付き、向き合い、行動を選択していけるよう、コーチングをベースとしたコミュニケーションの実践を行っています。 ・お子さまの「やりたい!」「やってみたい!」という意欲や興味を引き出し、様々な経験へと繋がるような機会を提供しております。 ・お子さまの選択を尊重し、次への自信に繋がるようなフィードバックや気持ちのシェアを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容についての毎日の振り返りや保護者様との情報共有、社内研修などを通して、お子さまたち一人ひとりに応じた選択肢や環境の拡充、支援内容の向上に努めてまいります。
2	多様な体験や学び、内発的動機づけに繋がるワークショップの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体的に学びに行けることを意識して、体験型/学習型のアクティブラーニングを主とした室内外のワークショップを提供しています。また子どもたちが様々な活動に挑戦する意欲のあと押しとなるようなコーチングやティーチングベースの関わりを行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より主体的な学びになるよう、活動後の振り返りをお子さまを交えて行ったり、お子さまたちからのワークショップ案を募集・企画・実行に移せるよう職員間および児童間連携を図りたいと考えています。
3	お子さま一人ひとりが安心して通うことのできる居場所づくりや人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さまが「ここに居たい、通いたい」と思えるような開放的な空間を意識して、採光や色を取り入れたり、個々の活動や情緒に適した部屋割り等の環境設定を行っています。 ・お子さまの気持ちを受容・傾聴する、自身の気持ちを安心して伝えられるよう支援をしております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃の徹底のみならず、設備安全や療育ツール・遊具の充実など療育的側面も意識した環境整備に努めてまいります。 ・社内外の研修に参加することでお子さま一人ひとりの発達や特性に合わせた、支援の質の向上を図りたいと考えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お子さまの年齢や特性に応じた集団活動の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・運動/制作/学習等、状況に応じた環境を選択できる部屋割りやスペースの設計をしていますが、よりお子様のニーズに合わせた集団活動や環境の設定が必要と考えています。特に同じワークショップの中でも難易度や課題感の違う広がりを持たせた提示をするなど、年齢に関係なく参加の意欲が湧くような工夫が必要と思われます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内/外の活動を織り交ぜながら、多様な体験/経験の機会を創出するとともに、お子さま自身のデマンドも捉え、本人主体の活動の企画サポートを行います。
2	社会性やコミュニケーションスキルを構築するための多様な交流機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間の小集団療育を通して、多様な学びやお子さま同士の交流、自己選択に繋がる支援を行っておりますが、事業所内が主であったため、より多様な交流機会の創出が必要だと考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さまや保護者様のご要望を伺い、必要に応じて他教室や地域との交流会を企画し、年齢や学校、事業所間問わず様々な人々たちとの交流機会の創出を検討します。
3	事業所の対応/取り組みや関係機関との連携など保護者様の安心感に繋がるような情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や感染症罹患等の緊急時対応やその後の対策検討会、非常時避難訓練の実施と保護者への周知を行っていましたが、より詳細な内容については周知が必要だと思われます。 ・併用事業所様、相談支援事業所様と密に連携し、お子さまの支援にすぐに落とし込めるような体制の構築と実際の支援状況とその成果をスムーズに相互共有できる関係構築が必要と考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の申し送りや連絡帳アプリ等を通して、保護者さまにより詳細な情報を常に共有するよう心がけます。 ・担当者会議やモニタリングに限らず、日々の変化や保護者/お子さまのニーズを相談/共有する体制構築に努めます。